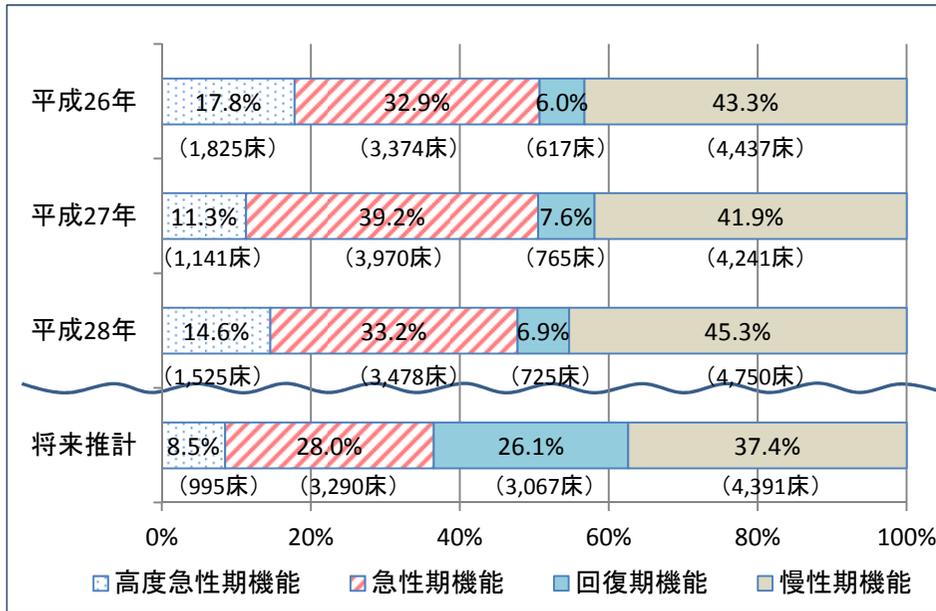
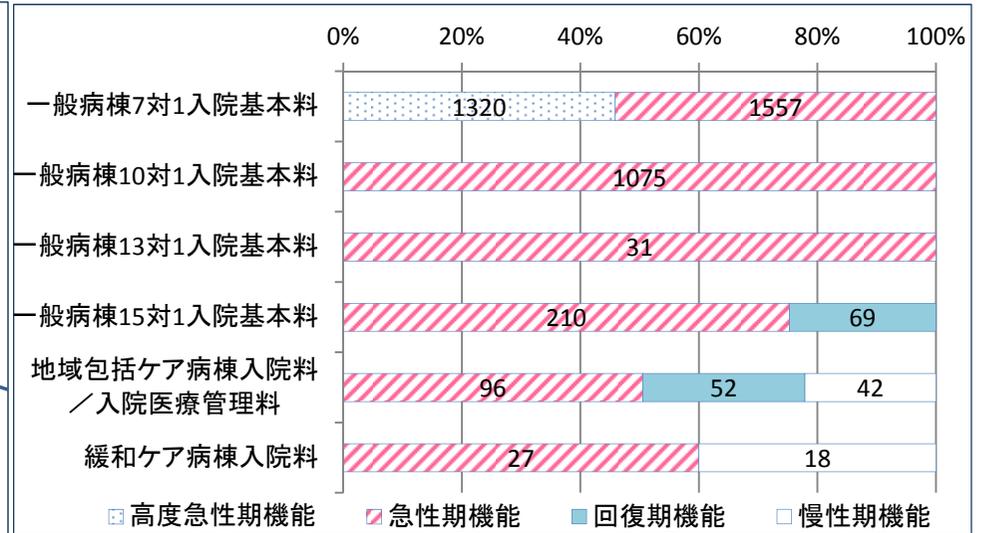


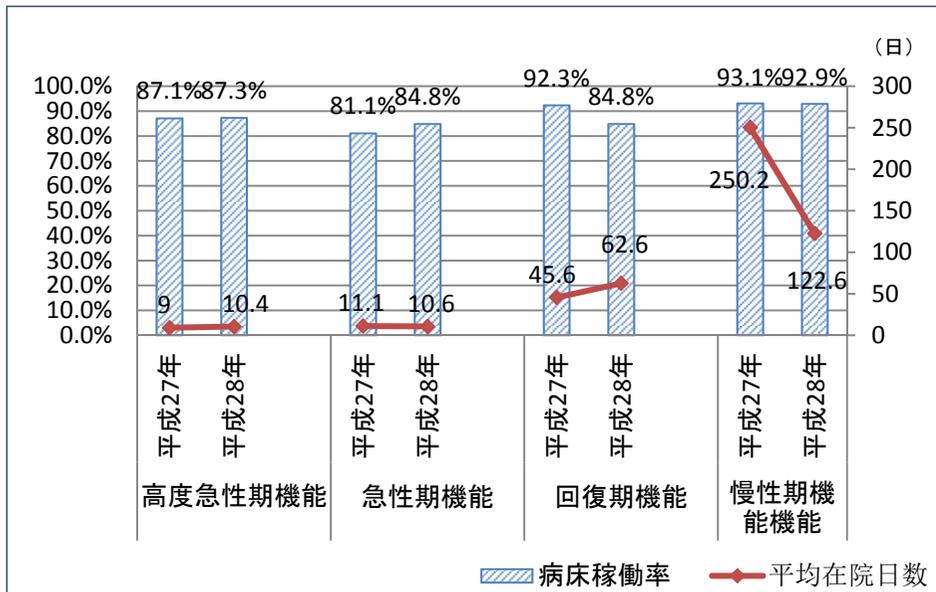
①4機能別病床数の推移(平成26年度～平成28年度)



③入院料×機能



②病床稼働率と平均在院日数の推移(平成27年度・平成28年度)



④退院後1ヶ月以内に在宅医療を必要とする患者の割合

機能	在宅医療を必要としない患者(死亡退院を含む)	自院が在宅医療を提供する予定の患者	他施設が在宅医療を提供する予定の患者	在宅医療の実施予定が不明の患者
高度急性期機能	1956 (62.1%)	10 (0.3%)	93 (3.0%)	1091 (34.6%)
急性期機能	5290 (89.5%)	40 (0.7%)	244 (4.1%)	339 (5.7%)
回復期機能	106 (42.9%)	6 (2.4%)	53 (21.5%)	82 (33.2%)
慢性期機能	330 (64.1%)	61 (11.8%)	55 (10.7%)	69 (13.4%)

⑤退院調整部門を置いている病院の割合 53.3%

- ①H27からH28にかけて、高度急性期機能の増(7:1病床の増)、慢性期機能の増(療養病床の増)
- ②高度急性期から回復期機能にかけて、平均在院日数が長くなっている
- ③7:1病床において、高度急性期機能での報告割合が高い
- ④回復期機能において、他施設で在宅医療を提供する割合が高い一方、実施予定が不明の割合も高い。
- ⑤退院調整部門の設置割合が都平均に比べ低い。